

●一斉学習

■児童生徒発表型

実践タイトル よいところを見つけて伝え合おう

本時のねらい

自分や友だちの作品の物語や表現のよさや工夫したことを互いに見つけ、伝え合う鑑賞活動。絵の細部を拡大して提示したり、ペンで囲むなどして強調したりすることで、児童が互いのよさや工夫を捉えやすくし、伝え合う活動を充実させる。作品づくりには学校農園「なないろばたけ」で自分たちが育てた野菜をテーマとした。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

実物投影機で撮影した絵を電子黒板で拡大提示することにより、作品の細部まで、児童全員に見やすくするとともに、工夫したところや気に入っているところなどをペンで書き込みながら表現できるようにした。

静止画

静止画に伝えたいことやこだわりポイントをペンで書き込むことにより、他の児童にも分かりやすく伝えることができ、話し合い活動の充実を図ることができる。

参考にしてほしいポイント

四つ切りサイズの絵をさらに大きく拡大提示することで、細かい絵の部分やストーリーを伝えることが可能になる。伝えたい場所に線などを書き込みながら示すことにより、相手に分かりやすく表現することが可能になる。電子黒板には実物投影機でなく、デジタルカメラで撮影しても静止画を提示もできるので、授業時間内で作品を撮影する時間がとれないときは、あらかじめ撮影しておいて、提示することも考えられる。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入 0 10	○「なないろばたけやさいワールド」の発表会を行うことを知る。 ・発表の仕方(話す言葉、発表内容)、聞き方(聞く姿勢、質問をする)を確認する。	
	展開 35	○絵のストーリーとこだわりポイントの発表練習をする。 ○よいところを見つけて伝え合ひましよう「なないろばたけやさいワールド」発表会。 ・電子黒板を中心として発表サークルになる。 ・発表者が伝えたいところをペンで丸や線を引いて伝える。 ・聞いている人はよいなど思ったことをペンで線や丸をかいて伝える。	・電子黒板 ・実物投影機(デジタルカメラ)(児童の絵を実物投影機で撮影し、電子黒板を使って拡大提示をする)(写真1~3)
	まとめ 45	○学習の感想を書く。次時の学習の予告を聞く。	



写真1: 発表会に向けた練習をする



写真2: 作者がみんなの前で発表をする



写真3: 作品の工夫や良さを伝え合う

児童生徒の反応

電子黒板を活用した実践も3年目になり、タッチ操作、拡大やペン操作などの基本操作について、教師だけではなく児童も慣れてきている。2年生でもタッチ操作やペン操作などすぐに覚え、学習で活用している。ディスプレイ上でペンの色を変えたり、文字を書いたりすることは容易にできる。「わたしもそこがよいなと思いました」「同じ考えだ」「楽しそうな物語だね」などさまざまな反応が多く見られた。

活用効果

評価の観点	鑑賞
具体的変容	電子黒板を活用した鑑賞活動で、児童が作品のよさや、表現の工夫、伝えたいことや伝えたい部分を明確に示すことができるので、児童も進んで鑑賞に取り組むことができた。

実践の手応え

絵画だけでなく工作の作品物を拡大し提示することも行った。小さい作品だと児童が集まっても見えない部分や、伝えたいところがよく伝わらない場合がある。そういった課題を解決するために、作品を実物投影機で撮影し、静止画を拡大提示することで、児童相互の意見交換が活発に行われるようになり、鑑賞活動の充実がはかれた。